

川崎市青少年科学館紀要投稿者への指針

投稿を考えている人は、下記の「投稿者への指針」に必ず目を通し、事前に原稿の体裁や内容を整える。また、科学論文の書き方については、市販されている各種の関連書籍などを参考にするとよい。

- 1 投稿に際し、可能であれば事前に当該分野の専門家の校閲を受けることが望ましい。共著者がいる場合、必ず共著者間で原稿のチェックを終えたのちに投稿する。
- (1) 原稿は簡潔明瞭とすることに努め、原著論文においては、不必要に長い考察や論理的に曖昧な推定の羅列は避ける。
- (2) 原著論文や短報などの表現については、当該分野の学術雑誌をよく読み、文書の構成や論理的な表現について十分に参考にする。学術雑誌は県立図書館や博物館のライブラリーに収蔵されているほか、最近ではオンラインでオープンアクセスの雑誌も増えているので、適宜参考にする。
- (3) 引用文献については、表記のミスや引用・記載漏れがないように、実際に引用しているか、またはそれが引用文献として書かれているかを、投稿前に確認する。
- (4) 図表の体裁が不十分なケースが散見される。作成に際して不明な場合は、投稿前に編集委員会へ相談することが望ましい。

2 原稿の体裁

- (1) 提出原稿は、原則としてパソコンの文書作成ソフトウェア (Microsoft Word) で、川崎市青少年科学館のホームページ上で公開された別に定める投稿用フォーマットを元に作成する。ファイルの設定は基本的には、A4判の縦置き横書き、文字サイズは10.5ポイント、文字数と行数の指定は標準の文字数、余白は上下左右3cmとする。文章は両端揃えとする。文字のフォントは、和文は「MS 明朝」、英文と数字は「Times New Roman」とする。英数字は半角とし、句点、読点はそれぞれ全角で「。」および「、」とする。本文は2段組みとし、文体は、謝辞を含めて「である調」を用いる。
 - (2) タイトルの下には英文タイトルを入れる。
 - (3) 著者の所属機関または自宅などの連絡先を、原稿の末尾に入れる。
 - (4) 論著の区分は、1) 原著論文、2) 記録・報告 (短報や普及的記事等を含む)、3) 目録 (自然史資料 (標本等)) の3区分とし、基本的に、タイトル・著者名・諸言 (はじめに)・材料および方法・結果・考察・謝辞・引用文献といった順で作成し、図表がある場合は解説を末尾につける。
- 3 学名はイタリック体とし、下線は引かない (命名者はイタリックにしない)。
例: *Drilaster akakanajai* Kawashima, Satou & Satô, 2003
 - 4 見出しはゴシック体とする。
例: はじめに 結果と考察
 - 5 人名の2字目以降のスモールキャピタル (小型英大文字) 化は行わず、小文字にする。
例: KAWASHIMA (×) → Kawashima (○)

- 6 本文中での文献の引用は、著者名と年号 (必要に応じて丸括弧で囲む) を明記する。丸括弧および年号の数字は半角で書く (引用文献も同様)。

(文献引用の記載例: ◇は半角スペースを表す)

- (1) 報告を主語にする場合の例

川島・堀内◇(2016)、永井ほか◇(2015)、Kawashima◇&◇Satô◇(2003)、Kawashima◇
et al.◇(2016) 例: 永井ほか◇(2015) によると...

- (2) 報告を引用する場合の例

(川島・高梨,◇2016)、(川島ほか,◇2016)、(Kawashima◇&◇Satô,◇2003)、(Kawashima◇
et al.,◇2016) 例: ~のような記録が報告されている (川島・堀内,◇2016)。

- 7 引用文献は、本文中に引用したものだけを、著者名、発行年 (西暦)、表題、雑誌または書名、巻、号、頁の順に記す。雑誌巻数はボールド (太字) とし、雑誌名は略さない。英文誌名はイタリックとする。号数はボールドとせずに丸括弧で囲む。書籍は出版社名とその所在地を記入する。なお、また、並べ方は著者名の ABC 順とし、同著者名が2 つ以上ある場合は年次順に並べる。さらに同一年の場合は、日付順に a、b、c・・・と付して区別する。

(引用文献の記載例:◇は半角スペースを表す)

- (1) 雑誌の論文等を引用する場合

ア 和文論文

鈴木邦雄・川島逸郎,◇2007.◇◇「奈良坂源一郎◇蟲魚図譜」に描かれた昆虫類.◇
名古屋大学博物館報告,◇(22):◇211-247.

イ 英文論文

Kawashima,◇I.◇&◇M.◇Satô,◇2001.◇◇Three◇new◇species◇of◇the◇genus◇
Rhagophthalmus◇(Coleoptera,◇Rhagophthalmidae)◇from◇southeast◇Asia.◇*Elytra*,
◇29:◇423-434.

ウ 同年に出版された同一著者による論文

Sasamoto,◇A.◇&◇I.◇Kawashima,◇2009a.◇◇Description◇of◇the◇last◇instar◇
larva◇of◇*Hylaeothemis clementia*◇Ris◇from◇Laos◇(Anisoptera,◇Libellulidae).
◇*Odonatologica*,◇38:◇373-378.

Sasamoto,◇A.◇&◇I.◇Kawashima,◇2009b.◇◇Description◇of◇the◇last◇instar◇
larva◇of◇*Nepogomphus walli*◇Fraser,◇1939◇(Anisoptera,◇Gomphidae)◇from◇
Malaysia,◇southeastern◇Asia.◇*Tombo*,◇52:◇7-12.

- (2) 書籍を引用する場合

ア 和書の一部

川島逸郎,◇2000.◇◇ニッポンハナダカバチ◇砂地だけにすむ狩人.◇pp.◇127-
129,◇*In*:◇横須賀市自然・人文博物館◇(編),◇三浦半島◇自然と人文の世界,
◇257◇pp,◇かなしん出版,◇横浜.

イ 和書の全体

尾園◇暁・川島逸郎・二橋◇亮,◇2012.◇◇ネイチャーガイド◇日本のトンボ.◇531◇
pp.,◇文一総合出版,◇東京.

ウ 洋書の一部

Kawashima, I., Lawrence, J. F. & M. Branham, 2010. Family Rhagophthalmidae. pp. 135-140. In: Leschen, R., Beutel, R. & J. F. Lawrence (eds.), *Handbook of Zoology, Vol. IV. Arthropoda, Insecta, Part 38. Coleoptera Vol. 2.* 786 pp., 330 figs., Walter de Gruyter GmbH & Co., KG, Berlin & New York.

エ 洋書の全体 (執筆者の分担部分が不明瞭な場合を含む)

Leschen, R., Beutel, R. & J. F. Lawrence (eds.), *Handbook of Zoology Vol. IV. Arthropoda, Insecta, Part 38. Coleoptera Vol. 2.* 786 pp., 330 figs., Walter de Gruyter GmbH & Co., KG, Berlin & New York.

オ 訳本 (内容を引用)

ハンセン (Hansen, V. L.), 1989. *Geometry in nature.* 井川俊彦 (訳), 1994, 自然の中の幾何学, 190 pp. トッパン, 東京.

- 8 電子文献については、引用文献中に併せて記すものとし、電子ジャーナルの情報の書き方は、著者名、発行年 (西暦)、表題、雑誌名等、巻、号、頁、媒体の順に記す。CD-ROM などの情報媒体の書き方は、著者名、発行年 (西暦)、表題、出版社名、出版都市名、媒体とする。ウェブサイトより情報を引用する場合は、著者 (编者)、表題、URL、閲覧した日付の順に記す。

(1) 電子ジャーナルより引用

Rahbek, C. & G. R. Graves, 2001. Multiscale assessment of patterns of avian species richness. *Proceedings of National Academy of Science, USA*, 98: 4534-4539. (Online journal).

(2) CD-ROM、DVD-ROM などより引用

Prast, W. & J. Shamoun, 1997. Bird remains identification system. Springer-Verlag, Berlin & Heidelberg. (CD-ROM).

(3) ウェブサイトより引用

神奈川県, online. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 2004. 神奈川県レッドデータブック 1995 年改訂版. <http://e-tanzawa.agri.pref.kanagawa.jp/rdb/> (accessed on 2005-October-10).

Watanabe, K., online. Information station of Parasitoid wasps. <http://himebati.jimdo.com/> (accessed on 2013-November-5).

- 9 図表の画像解像度は、線画では 650 dpi、写真では 350 dpi 以上とする。表は 1200 dpi 以上とするか、Excel 等のファイルを直接投稿する。グレースケールかモノクロによる掲載になるため、それらに準じたファイルを用意する。図のファイルは PDF か JPEG で作成する。小さな図が複数ある場合は、写真や図など、それぞれをまとめて一枚のプレートにし、省スペースにつとめる。地図を掲載する場合、東西南北の北は矢印 (真北) にし、4 の字型 (磁北) にしない。図には番号をつけ、必要に応じて A, B, C... とする (例: 図 1A, 2B, 6)。番号や矢印、文字のサイズは印刷時のサイズも勘案して記入する。

- 1 0 図表は文字列の折り返しで行内に設定し、図のタイトルは、図の左下、表のタイトルは表の右上になるよう配置し、図表にキャプションがある場合は、アスタリスクを付け、下部に記載する。図表が2段組みで収まらない場合は、ページ全体（横置きも含む）あるいはページの上下に1段組みで配置する。
- 1 1 その他詳細については、最近の既刊号を参考にする。また、不明な点は投稿前に編集委員会に問い合わせる。

付則 本規定は2016年10月21日から実施する
(2016年10月21日改定 28川教青科第138号)。
(2022年11月22日改定 4川教青科第127号)